高齢化が進む日本で増える脳梗塞
高血圧、糖尿病、不整脈治療で予防

寒くなると脳卒中が増えるといわれています。確かに私が勤務する病院でも気温が下がった昨年暮れ以降、脳卒中の患者が増加しています。

近年、脳卒中による死亡は減少傾向ですが、いまだ日本人の死因の 4 位です。助かっても日常生活や認知機能が障害され、重症度や年齢にもよりますが、元通りの生活に戻れるのは半数ほどです。

脳卒中は、脳の血管が詰まる脳梗塞、脳内に出血する脳出血、脳の外で出血するくも膜下出血に分けられます。脳卒中の 4 分の 3 が脳梗塞で、梗塞の発症リスクは年齢とともに上がります。高齢化が進む日本では、脳梗塞が増加傾向です。

75 歳女性 A さんは 2 年前から心房細動を指摘されていました。1 月中旬、買い物中に突然意識を失い、倒れました。救急車が呼ばれ、右手足の麻痺（まひ）と発語障害があり、急性期脳卒中診療が可能な病院へ搬送されました。

MRI（磁気共鳴画像装置）で診断すると、左の脳に行く太い血管（内頸（けい）動脈）が閉塞（へいそく）しています。幸い MRI 所見で、すぐに血管を再開通させれば脳の細胞を救うことが可能と判断されました。そこで血管を再開通させるカテーテル治療（経皮的血栓回収術）を行い、治療開始から 15 分で詰まった血管を再開通できました。脳の血流が完全に元通りに戻ったため、治療直後から症状が回復し始めました。翌日には麻痺や言語障害などは消え、1 週間後に後遺症なく、退院しました。

脳梗塞は脳に血液が流れなくなる病気で、すぐに治療しないと神経細胞が障害され、死にます。その結果、体が麻痺したり、言語や認知機能が障害されたりし、生活の質が低下します。ひどい場合は亡くなります。

脳梗塞を起こしやすいのは、高血圧、糖尿病、脂質異常症、心臓の病気（とくに心房細動）のある人です。高血圧や糖尿病があると動脈硬化が進み、脳梗塞を起こしやすくなります。心房細動があると、心臓で血が固まり（血栓）やすく、血栓が飛び、脳の血管に詰まると脳梗塞を起こします。

脳梗塞は冬にも多いのですが、実は夏の方が少し多いのです。とくに動脈硬化で起こる脳梗塞は夏場です。一方で脳出血や心房細動が原因の脳梗塞は冬場に多くなっています。高齢の女性でこのタイプの脳梗塞が増えています。

■血栓溶解療法と血管内治療

発症直後の治療は 1 分 1 秒を争います。血栓を溶かす薬を点滴する方法（血栓溶解療法）とカテーテルなどを用い、再開通させる血管内治療があります。両方組み合わせることもあります。

血栓溶解療法は発症後 4 時間半以内の脳梗塞で、比較的細い脳の動脈が詰まったときに使います。ただ、この薬は出血しやすくなるため、治療後に脳出血を起こすことがあり、すべての人に使えるわけではありません。

血管内治療は比較的太い動脈の閉塞に使われます。発症後 6 時間以内が理想的ですが、16 時間以内でも有効です。さらに MRI などで神経細胞が生き残っていそうであれば 24 時間以内でも治療することがあります。

脳梗塞を起こした人は半分近くが再び梗塞を起こします。急性期の治療が終われば血液をサラサラにする薬などで再発を予防します。さらに重要なことは生活習慣を改善し、高血圧や糖尿病、不整脈があれば、徹底して改善・治療することです。